

# ネットワークアンケート 29

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

## Q. 糖尿病患者さんへ、災害時に備えて指導を行っていますか？

甚大な被害をもたらした「東日本大震災」では、被災者の健康悪化が懸念されています。糖尿病患者さんについても、血糖コントロールの悪化や震災に伴う疾患、ストレスなど、心配は尽きません。今回の震災を受けて、糖尿病患者さんの災害時への備えについて、対策状況やご意見を伺いました。

[回答数：医療スタッフ53名(医師8、看護師19、准看護師1、管理栄養士13、臨床検査技師2、薬剤師5、その他5。うち健康運動指導士1、日本糖尿病療養指導士18)、患者さんやその家族287名(病態/1型糖尿病123、2型糖尿病156、糖尿病境界型5、その他3、治療内容/食事療法215、運動療法176、飲み薬の服用158、インスリン療法 171/重複回答あり)]

「今回改めて指導を行った」という方が最も多く34%で、「震災を機に指導を行った」方15%を合わせると、約半数が震災を機に指導を実施したとのことでした。また、過去に実施したことがある方を含めると、指導実績のある方は全体で66%。指導を行ったことがある内容としては、「糖尿病連携手帳やお薬手帳の携帯や管理」、「処方薬剤名を覚えておくこと」が回答者の約7割、「インスリン製剤の備蓄や保管」が約半数と比較的多い一方、「避難所での低血糖対策」は3割、「避難所での食事療法、運動療法、高血糖対策」は2割程度でした。

また、糖尿病患者さんに対して被災地で最も心配されることでは、「処方薬が服薬できない」が最も多く85%、「低血糖・高血

糖への対処」75%、「処方薬剤名を覚えていない」64%、「食生活の乱れ」62%が続きました。

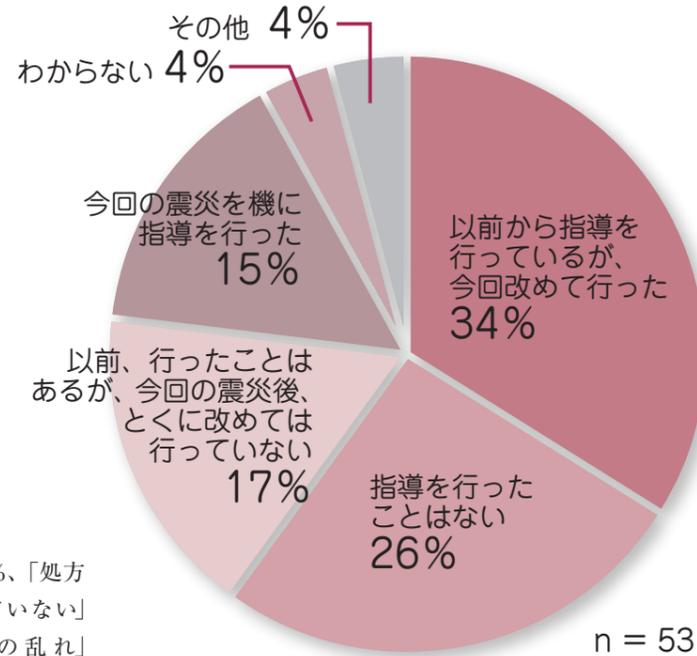
自由記述では、「被災地では、薬の名前を知らない人が多かった。救援が来るまでに1カ月を要した方もおり、予備の薬は1カ月分程度持っていてよいのではと感じた」、「患者、医療スタッフ共通のマニュアルがあると良い」、「食事が摂れない時のインスリンの打ち方、血糖降下薬の飲み方の指導は必要」、「被災地では、どのようなことが困っているか、今後の参考になる情報をもっと知りたい」等、多くの意見が寄せられました。

## Q. 糖尿病患者さんに対して被災地で最も心配されることは？

(上位3つを複数回答 n=53)

処方薬を服薬できない	85%	自分が糖尿病であることを言い出せない	32%
高血糖・低血糖の対処	75%	血糖測定ができない	21%
処方薬剤名を覚えていない	64%	運動不足	21%
食生活の乱れ	62%	その他	4%
感染症	60%		
ストレス	58%		

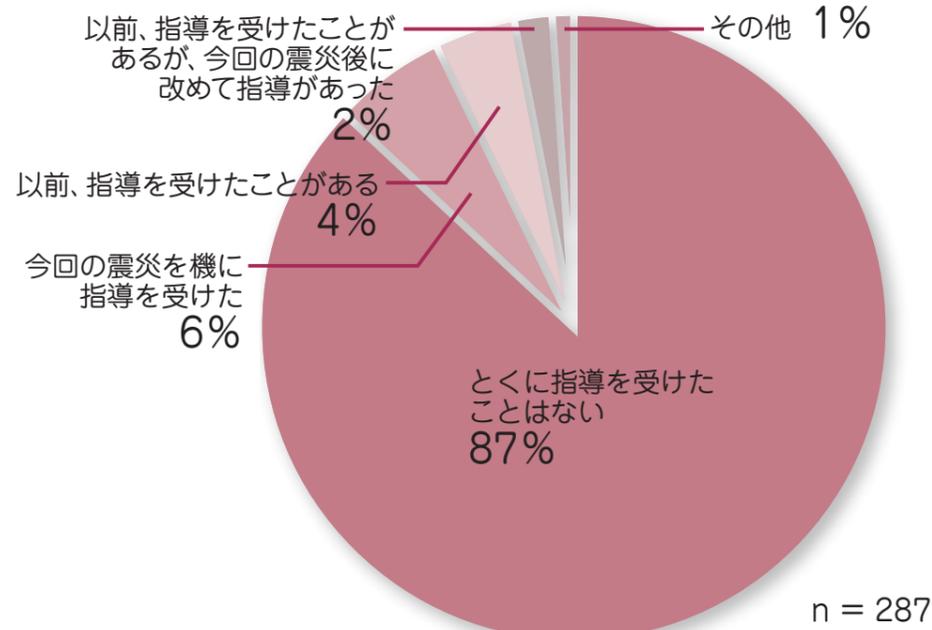
糖尿病ネットワーク <http://www.dm-net.co.jp/>



糖尿病ネットワークを通して

糖尿病患者さんに聞きました

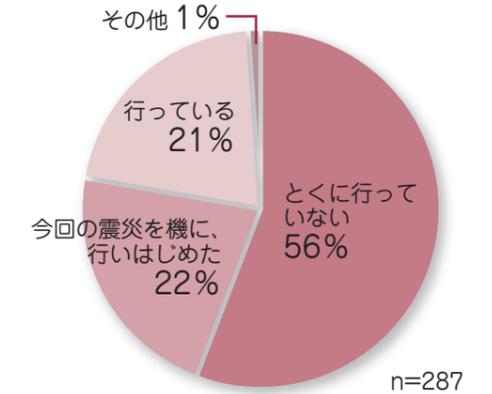
## Q. 通院する医療機関で、災害時の備えについて指導を受けたことはありますか？



87%の患者さんが「とくに指導を受けたことはない」と答えました。災害対策については、56%の患者さんが現在とくに準備を行っておらず、3月の震災前までは約8割の方が無防備であったことも浮き彫りになりました。

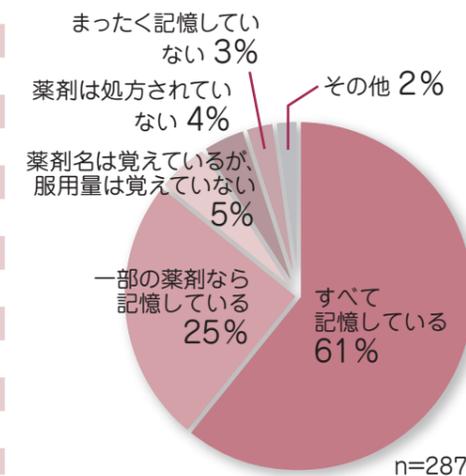
災害時の備えに対する指導内容としては、「処方薬剤名を覚えておくこと」、「糖尿病連携手帳やお薬手帳の携帯」は、災害時

## Q. 災害時の準備や対策は行っていますか？



最後に「災害対策として知りたいこと・不安なこと」を尋ねたところ、「食事を選べない避難所での食生活はどうしたらよいか」、「インスリンや経口薬がない場合の対処方法」、「今回の震災で、同じ糖尿病の人達が、実際どうだったのか、生の声を聞きたい」等々、とくに1型糖尿病患者さんを中心に多数の声が寄せられました。詳しくは、本紙次項でもご紹介します。

## Q. 処方薬剤名や服用量を覚えていてますか？ (n=287)



に限らず日常指導の中で話題が出ることもあるようですが(それでも2割程度)、具体的な災害への準備や避難所等での生活については、ほとんど指導が行われていないことが見受けられます。処方されている薬剤名や服用量は、うろ覚えな方が意外に多く、災害時はパニックも手伝い、医師にきちんと伝えられない患者さんも多いようです。今後の対策が必要かもしれません。

### ●コメンテーター●

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

災害の時、糖尿病患者さんにとって必要なものは、物資、情報、資金援助を含め、すべてだと思います。それが、どれだけ十分なのか、は個人差があるはず。特に治療内容やカルテ情報の喪失は甚大な被害になるでしょう。FACEBOOKなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)があれば、今後は、そこに自分の内服治療の詳細を、書いておくというのも手かもしれません。ネットを使えない高齢者にとっては、それは多大の負担でしょうが、スマートフォンが普及すると、そうした問題の解決策になるかもしれません。

## Q. 下記について指導や説明を行ったこと、受けたことはありますか？

	医療スタッフ (複数回答可 n=53)	糖尿病患者さん (複数回答可 n=287)
糖尿病連携手帳やお薬手帳の携帯や管理	70%	18%
処方薬剤名を覚えておくこと	66%	19%
緊急時に備えたインスリン製剤の備蓄、保管方法	47%	14%
緊急時に備えた経口薬の備蓄	42%	5%
緊急時に備えた血糖自己測定器の管理や消耗品の備蓄	30%	8%
避難所等での低血糖対策	28%	8%
糖尿病療養生活に役立つ「非常用持ち出し袋」の準備	26%	5%
病院や主治医などとの連絡方法	25%	7%
避難所等での高血糖対策	17%	3%
避難所等での食事療法	17%	6%
避難所等での運動療法	17%	2%
とくに説明や指導を行っていない・受けていない	9%	56%
その他	4%	13%